




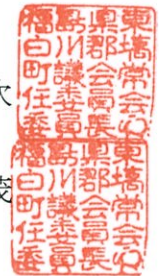
收受年月日	議 長	事務局長	書 記
29.8.30			
第 67 号			

平成 29 年 8 月 30 日

埴町議会議長 大縄武夫 様

経済常任委員会委員長 鈴木安次

総務常任委員会委員長 鈴木 茂



### 所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、所管事務の調査を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第 77 条の規定により報告する。

### 記

#### 1 調査事件

1 森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況現地調査(総務常任委員会と合同)

2 「湯遊ランドはなわ」及び「旧薩摩酒造工場」建築物等の現況調査

#### 2 調査の経過

本委員会は、森林整備加速化・林業再生基金事業で埴町にチップ工場の建設計画をしている遠野興産株式会社の作業状況について現地調査のほか会社からの聞き取り調査を行った。また、町有建築物等の現況について担当課からの聞き取り調査のほか現地調査を行った。

(1) 調査日 平成 29 年 6 月 27 日(火) 9:30~15:10

(2) 出席委員 鈴木安次、小峰由久、小林達信、吉田克則、高縁 光、  
青砥與藏、大縄武夫  
鈴木茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明、  
下重義人、鈴木孝則

(3) 説明員 まち振興課長、まち振興課長補佐

(4) 職務出席者 議会事務局長、書記

(5) 場 所 現地及び委員会室

#### 3 調査の結果

(1) 森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況現地調査

上渋井地区に遠野興産のチップ工場建設計画が提案され遠野興産と埴町職員も出席して2回説明会が開催され、5月22日には現地視察も実施された。埴町議会としても現地調査の必要があると判断して6月27日実施

した。

山田第二工場は騒音ホコリ共に想定していたほどうるさくなく、ホコリも外に出る構造になっていないので安心である。上渋井地区に建設しようとしているのはチップ工場のみで、材料は川上地区の工場から運ぶので交通量の増加もそれほど心配される規模にはならないと思われる。

埴工場ではチップを杉と雑木の2ヤードに分けて処理をし、埴町で問題の松くい虫の被害木の買い取りも行い、埴町産出の丸太は放射線量検査をしても未検出から50ベクレルと低いので安全で貴重材料であるとのことであった。埴町の林業再生のためにも是非とも建設してほしい施設である。

## (2) 「湯遊ランドはなわ」建築物等の現況調査

平成10年4月の開業から19年が経過し施設全体の痛みが目立ってきたので現地調査を実施した。

まず、大広間の屋根を見たがコンクリートが剥離していて痛みが想像以上に激しいが、まだ修理の計画がないとの話である。

次に、多目的交流施設（シックハウス）を見たが一階外の縁側は腐っていた。建物の中、寝室まで蟻が徘徊してとてもお金を取って提供する施設ではない。また、浴室まで遠く不便であり内風呂は深いので年寄りが入るには危険である。

大広間の屋根補修工事、浴槽タイル剥離、多目的交流施設の縁側、蟻対策等早急に取り組む必要がある。町長も挨拶以外では一度も施設を見に行っていないとのことなので町の責任者として早急に施設点検すべきである。

## (3) 「旧薩摩酒造工場」建築物等の現況調査

旧薩摩酒造工場の施設は最低限の補修はされているようであるが、6月議会の一般質問で出されたように民間から薩摩酒造工場利用の希望があるのであれば、町が関与しない形で貸与するのも方法である。

旧薩摩酒造工場敷地の盛土の多さには驚いた。大雨が降っても被害の出ないような対策を急ぐべきである。また、東白衛生センター最終処分場建設残土を旧薩摩酒造工場敷地に運び込んだのは、水が命の酒造工場利用にあたっては自殺行為である。町政執行の一貫性が疑われる事態である。

横の連絡を密にすることは勿論であるが、町長も町のトップとしてリーダーシップを発揮することを望む。

## (4) 委員報告書

別紙のとおり

議員派遣  
委員派遣 調査研修等報告書

平成29年6月27日

議会議長  
委員会委員長

様

提出者 下 重 義 人

派遣目的 (調査等名称)	総務常任委員会 所管事務調査		
派遣の日時	平成29年6月27日	派遣先 (場所)	福島県いわき市山田町林崎100番地の1 遠野興産山田第二工場
内 容	遠野興産山田第二工場視察		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>遠野興産山田第二工場は、製材業とチップ業が隣り合う工場で、元は製材業だけの工場を、遠野興産が買い受けチップ業の事業を始めた工場である。</p> <p>製材工場当時は、敷地は舗装がされてなく周辺住民からは、粉塵などの苦情があったが、後にチップ工場を創める際に敷地内を舗装化してからは、環境が改善されたとのこと。</p> <p>最も企業が大切なのは、工場周りの環境への気配りだと思います、騒音、粉塵を初め、あらゆる不快感を及ぼすものを、打開してから事業を行なう事が、再前提ではないでしょうか。</p> <p>今後も、工場周辺の環境への配慮を尚且つ願いたいものです。</p>		

議員派遣  
委員派遣

## 調査研修等報告書

平成 29 年 7 月 3 日

大縄 武夫 議会議長  
鈴木 茂 委員会委員長

様

提出者 吉田 広明

派遣目的 (調査等 名称)	森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況現地調査		
派遣の 日時	平成 29 年 6 月 27 日	派遣先 (場所)	いわき市山田町
内容	1、いわき市山田町・遠野興産(株) 山田第二工場視察 チップ加工工場内見学		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>遠野興産の事業の必要性の中で、「低質材の利用拡大にもに繋がり、森林環境整備の向上になる」と記載されている。この背景には、原町火力発電所や常磐共同火力発電所などへチップ材の需要が拡大している為であり、C材・D材を発電利用したいとの考え方であるかと思う。しかし、説明の中で、このままチップ材を加工していても、「3年程度で資源は不足する」とも言う。その為に、広域的にチップ工場を点在しなければならず、「森林整備」と言う言葉を使うのに違和感を感じる。現在、「月/1万t~1.2万t不足している」、「今後、2年の見通しで消費が増える予定」とも言う。震災前には、森林整備などの名称で税金を投入してまでの話はなかった。軽トラ/350kgの場合=1,400円程度(買取単価t/4,000円)、枝葉は容積も増すので、1,000円以下の場合もある。馬頭町も同じシステムを導入しているが運用効果は聞かない。雑木も杉材と同一単価で購入しチップ加工も可能、共和木材のパークも受け入れるなどの説明がある。渋井地区に建設予定の工場では、生活圏への影響に依る住民の反対意見があると聞いている。そのような中で住民合意がなければ難しい。地区住民の分断をする事業などは、行政の公平中立の立場をわきまえて判断して欲しい。事業主が建設をしたければ、<u>企業コストの判断以前に、住宅地域に影響の少ない場所の選定をまずすべきである。「補助金の執行期限が残り少ない」と言う理由で押し付けるのは疑問を感じる。まずは、地域の合意である。</u></p>		

## 議員派遣報告書

平成 29 年 6 月 28 日

埴町議会議長 様

埴町議会議員 青砥與藏

派遣 議員(報 告議員)	遠野興産株式会社 山田第二工場・湯游ランドはなわ 旧薩摩酒造の 3 か所の現地調査		
出席者 等	町議会議員 (総務・経済常任委員会合同)・役場職員 4 名同行		
派遣 目的	現地現状の調査と確認		
派遣日 時	8 : 30 ~ 15 : 00	派遣先 (場所)	上記 3 か所
内容	<p>[ 1 ] 遠野興産株式会社 山田第二工場の見学 上渋井に木材チップ工場を計画している遠野興産の取り組みや 埴工場の目的、地域との話し合い経過の確認 意見 遠野興産社長の地域との共生を重視した考えを聞き、また、埴の 林業を安定するためにも、是非誘致したい。</p>		
	<p>[ 2 ] 湯游ランドはなわの建物の修理が必要な現状 厨房の屋根の防水・クラフト館ベランダの床材劣化・ジュウタン のシミなど修理の現状 意見 修理は必要と考えます、大きな問題は健全経営です、今まで道理 の「頑張ります」では、好転は無理でしょう。 総務省は指定管理者で有っても「議会は積極的に口を出すべき」 と言っている。当議会も営業・仕入・管理について踏み込んだ調 査が必要と考えています。</p>		
	<p>[ 3 ] 旧薩摩酒造工場の現状 修理箇所の確認・搬入した土砂の状況 意見 酒造再開には、土砂の水質汚濁に対する安全確保が必要、また 工場内の整備に掛かる再開発費用は昨年 9 月定例会において 3200 万円と総務課長が話していましたが、上物の修理だけでも予 算を超えたいと思います。販売についても、容易では無いと考えま す。町が主導的に行うことは、拒否したいと考えます。</p>		
	役場到着後、課長と意見交換		

議員派遣  
委員派遣

調査研修等報告書

平成 29 年 7 月 12 日

議会議長  
委員会委員長 様

提出者 高 縁 光

<p>派遣目的 (調査等 名称)</p>	<p>○ 経済常任委員会、埴町先井地に遠野興産株式会社 ○ 総務委員会 会社による木材チップ工場建設に対する しわき工場視察</p>		
<p>派遣の 日時</p>	<p>平成29年6月27日(土) 埴役場 午前8時30分</p>	<p>派遣先 (場所)</p>	<p>① 森林整備加速化林業再生基金 事業 ② 湯遊ラウンド建物 ③ 旧薩摩酒造工場建物</p>
<p>内容</p>	<p>① 遠野興産のチップ工場内を視察、後日容 について説明を受ける ② 湯遊ラウンド建物屋根の破損を視察するとくにシワク ハウスの屋根無し部分の破損 ③ 旧薩摩酒造工場建物の現況調査</p>		
<p>派遣 結果 (意見 及び 感想)</p>	<p>① 遠野興産の説明によると ○ 騒音については人家からはとれているため 由題がたかと思われている ○ 粉塵については屋根裏に粉塵を吸引する 装置をつける話であったので「問題がたか」と 思われる ○ 放射測定について放射能測定機を設 置してセシウム測定を新設する事務所内に 設置するとおぼろしい心配は車の通行量と 思われる ② 湯遊ラウンドについて今後修理の箇所が多くなる と思われているので対策が必要になると思われる ③ 薩摩酒造について一部に雨漏りがあるとの説明 であった今後修理の箇所が多くなると思われる</p>		

又他の川酒造による減作酒造を考えている事業に

埴町議会 成功を望みます

調査・研修等報告書

氏名	吉田 克則	提出年月日	平成 29 年 7 月 12 日
調査等名称	総務・経済常任委員会合同所管事務調査		
調査等の日時	平成 29 年 6 月 27 日	場所	現地及び委員会室
調査等の内容	森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況現地調査 「湯遊ランドはなわ」建築物等の現地調査 「旧薩摩酒造工場」建築物等の現地調査		
意見感想	森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況現地調査 いわき市山田町「遠野興産株式会社」山田第二工場を視察。工場でのチップ生産、製材の状況を視察した。代表取締役中野氏から工場の説明を聞いた。林業農家へ少しでも多く収入が得られることを優先している等の話を聞き、林業振興を考えて営業をしている会社と思えた。工場内は整理整頓されていて清掃もいきとどいていた。騒音は気にならなかった。  「湯遊ランドはなわ」建築物等の現地調査 施設の屋上にあがり、屋根の状態や多目的交流施設等を見た。平成 22 年度施設のリニューアル工事をしたが、今後も修繕が必要な箇所が見受けられた。特に雨漏り対策工事や風雨による木造外装劣化の補修、カーペットの汚れ解消等。温泉、娯楽、観光施設なので、お客様を迎えるための最低限の修繕は必要かと思う。除草・清掃等の管理作業は自ら出来ると思うので常に気を配ることも大事である。  「旧薩摩酒造工場」建築物等の現地調査 建築物等の現地視察をした。平成 28 年 3 月に醸造機器修繕工事をして工場稼働は出来ると説明を受けた。町が酒造工場を直接運営するのではなく、工場利用希望者がいればその方に活用をしてもらうのが一番得作ではないかと思われた。		

経済総務常任委員会合同視察研修報告書

提出者 鈴木茂

日時 平成29年6月27日

場所 遠野興産山田第2工場 (いわき市)

現地にて遠野興産の社長案内のもとにチップ工場、及び製材工場を視察しました。工場は平成26年に完成して操業しました。近代的で騒音もなく粉塵なども飛んでいませんでした。塙町の木材は、放射線も低くここに来てチップの需要が増しており、ぜひ塙町にチップ工場を建設したいとのことでした。又、杉材以外に松や雑木を買いとり、地元の役に立ちたいとのことでした。



議員派遣  
委員派遣

## 調査研修等報告書

平成 29 年 6 月 30 日

議会議長  
委員会委員長

様

提出者 鈴木安次

派遣目的 (調査等 名称)	総務・経済常任委員会合同所管事務調査報告書		
派遣の 日時	平成 29 年 6 月 27 日	派遣先 (場所)	現地
内容	<p>現地調査</p> <p>第一 森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況現地調査 ・いわき市山田町 遠野興産株式会社山田第二工場</p> <p>第二 「湯遊ランドはなわ」建物等の現況調査</p> <p>第三 「旧薩摩酒造工場」建物等の現況調査</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>第一 森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況調査 上渋井地区に東野興産のチップ工場建設計画が提案され東野興産と 埴町職員も出席して 2 回説明会が開催され、5 月 22 日には現地視 察も実施された。 埴町議会としても現地調査の必要があると判断して 6 月 27 日実施 した。 山田第二工場は騒音ホコリ共に想定していたほどうるさくなく、ホコ リも外に出る構造になっていないので安心である。 上渋井地区に建設しようとしているのはチップ工場のみで、材料は川 上地区の工場から運ぶので交通量の増加もそれほど心配される規模 にはならないと思われる。 埴工場ではチップを杉と雑木の 2 ヤードに分けて処理をし、埴町で問 題の松くい虫の被害木の買い取りも行い、埴町産出の丸太は放射線 量検査をしても未検出～50 ベクレルと低いので安全で貴重材料で あるとのことであった。 埴町の林業再生のためにも是非とも建設してほしい施設である。</p> <p>第二 「湯遊ランドはなわ」建物等の現況調査 平成 10 年 4 月の開業から 19 年が経ち施設全体の痛みが目立って きたので現地調査を実施した。 まず、大広間の屋根を見たがコンクリートが剥離していて痛みが想像 以上に激しいが、まだ修理の計画がないとの話である。</p>		

次に多目的交流施設（ ）を見たが一階外の縁側は腐っていた。建物の中、寝室迄蟻が徘徊してとてもお金を取って提供する施設ではない。

又、浴室まで遠く不便であり、内風呂は深いので年寄りが入るには危険である。

大広間の屋根補修工事、浴槽タイル剥離、多目的交流施設の縁側、蟻対策等早急に取り組む必要がある。

町長も挨拶以外では一度も施設を見に行っていないとのことなので町の責任者として早急に施設点検すべきである。

### 第三 「旧薩摩酒造工場」建築物等の現況調査

旧薩摩酒造工場の施設は最低限の補修はされているようであるが、6月議会の一般質問で出されたように民間から薩摩酒造工場利用の希望があるのであれば、町が関与しない形で貸与するのも方法である。

旧薩摩酒造工場敷地の盛土の多さには驚いた。大雨が降っても被害の出ないような対策を急ぐべきである。

又、東白衛生センター最終処分場建設残土を旧薩摩酒造工場敷地に運び込んだのは、水が命の酒造工場利用にあたっては自殺行為である。町政執行の一貫性が疑われる事態である。横の連絡を密にすることは勿論であるが、町長も町のトップとしてリーダーシップを発揮することを望む。

議員派遣  
委員派遣

## 調査研修等報告書

平成 29 年 7 月 4 日

議会議長  
委員会委員長 様

提出者 小峰由久

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会新設事の調査		
派遣の 日時	H29.6.27	派遣先 (場所)	いわき市、町内
内容	1. 林業再生基金事業の進捗状況 2. 湯遊ラント施設現状調査 3. 板庭工場跡地の現状調査		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	1. 県よりの補助事業であり地元に対策意見があると言う事だが、ババマス発展の失敗もあり二度も補助金返還を繰り返す様な事の無い様当局の不退転の覚悟を見守りたい。 2. 事業は地元には迷惑を及ぼす事が有ると思えず、6人の雇用を生み、林業農家の副収入を生み、森林の美林化に貢献すると思う 3. 傷みが進む前に手を打つべき 経営については町長のキツンに期待する 4. 使用目的が決まる迄投資は控える 5. ほとんどの残土置き場は後々問題にならなければと心配する		

- 麦の袋があり焼酎の試作をすると説明が  
あったが、町の奥手には断固反対する。
- 前の会社の販促品や未使用の酒器等が山積  
みされていたが、中を調べて湯遊ラントで利用  
したり、ダリヤの一輪差し等に活用すべし

調査・研修等報告書

氏名	小林達信		提出年 月日	
調査等 名称	総務・経済委. 合同調査			
調査等 の日時	平成29年6月27日	場所	現地. 吹田市 塙新	
調査等 の内容	遠野興産(株) 山田工場の内部・外部の 視察調査			
	「湯釜」の現状調査			
	旧薩摩酒造工場の現状調査			
意見 感想	山田工場は良く管理されており騒音 も外部にはほとんど出ず。塙新に进出 しもの問題もないと思われた。			
	「湯釜」の破壊箇所は多くても 修繕されたと思われた。			
	旧薩摩酒造工場は手入れされており早期の 稼働が望まれた。			

議員派遣  
委員派遣

## 調査研修等報告書

平成 29 年 7 月 1 日

議会議長  
委員会委員長 様

提出者 藤田 一男

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会 所管事務調査		
派遣の 日時	平成 29 年 6 月 27 日	派遣先 (場所)	いわき市山田町
内容	遠野興産山田第二工場視察		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	チップ工場を視察しましたが、今は設備も良くなっており、騒音も無く粉塵も飛んでないとのこと。企業誘致といってもなかなか埴町に来る企業もないのが現状です。埴町に来てくれる企業は大切にしたいです。立地する予定の地区の方たちとの話し合いが大切です。なかなか難しいところはありますが、良い方向に進むよう努力していただきたい。		

## 遠野興産（株）視察研修報告書

日時 平成29年6月27日 午前10時

場所 いわき市山田町山田第二工場

報告者 鈴木 孝則

中野社長が直々に工場内を案内していただいて説明を伺った。チップパー機から離れると騒音も少なく、また粉塵や木くずも清掃が徹底しており周囲の住宅からの苦情もないとのことであった。

埴町にチップ工場ができれば町内はもとより郡内の素材業者にとり運搬費の削減や低質材の利用拡大にもつながり、雇用の面でも効果があると思うし町内に専用のチップ工場が稼働できれば「木の町はなわ」にとってもふさわしいと思う。町は高みの見物ではなく地元と企業の仲介を速やかに行うべきである。

議員派遣  
委員派遣

## 調査研修等報告書

平成 29 年 7 月 10 日

議会議長  
委員会委員長 様

提出者 大縄 武夫

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会 現地調査		
派遣の 日時	平成 29 年 6 月 27 日	派遣先 (場所)	いわき市遠野興産、湯遊ランドはなわ、旧薩摩酒造工場
内容	1. 森林整備加速化・林業再生基金事業の進捗状況現地調査 2. 「湯遊ランドはなわ」建築物等の現地調査 3. 「旧薩摩酒造工場」建築物等の現地調査		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>埴町に開業を予定している遠野興産株式会社山田第 2 工場の状況を視察した。騒音は気になるほどではなかった。また、放射線量についても会社で常に測定していて基準値を超えるものは取り扱っていないと話がされた。</p> <p>湯遊ランドはなわの無料休憩場付近の屋根が早急な修繕が必要と思う。また、シックハウスの渡り廊下等建物周辺の修繕も必要である。</p> <p>旧薩摩酒造工場の屋根の雨漏りや雨どいの修繕が必要と思われた。</p>		